

目指す学校像	生徒の望ましい成長を支援する学校
重点目標	1 基礎基本を定着させる学習指導の工夫改善 2 地域と連携した教育活動の推進 3 魅力ある学校づくりの推進 4 機動力のある教職員組織の構築

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和7年2月19日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査結果では、国語・数学においては、ほぼ市平均と同程度であったが、ICTの活用においては、自らの考えを表現する活用に課題がある。 ○ICTに詳しい教員が多く、エヴァンジェリストを中心に「GIGAスクール構想」を推進している。 (課題) ○各教科において、学びの動機付けを図ることを通して、学習への意欲を高め、基礎基本を確実に定着させる必要がある。	○生徒の学習意欲の向上及び基礎学力の定着 ○一人1台端末のさらなる活用	①授業において、自分の考えをまとめ、表現(発表)する場面を単元に位置付ける。 ②自分で学習を進めていく習慣を身に付けるために、長期休業中だけでなく、定期的な家庭への持ち帰りによる家庭学習利用を実施する。	①市の学習状況調査において、学習意欲に関する項目の数値が、市の平均を上回ったか。 ②各教科において、自分の考えをまとめ、表現(発表)できる時間を意図的・計画的に確保できたか。	①「学びの動機付け」を重視し、自らの考えを表現する場面を設けることにより、意見交流の機会が増加した。 ②「学びの指標アンケート」の2回目の調査において、ICTの活用に関する項目で、他の項目と比べて、校内平均値がアップした。	B	①授業における対話的な場面を継続するとともに、根拠に基づいて自分の考えをまとめられるように支援していく。 ②自らの理解を他者に表現を工夫し、真の理解に繋がれるようにする。	・タブレットを有効活用するほど学力が下がるといった分析結果もあるため、ICTの影の部分も理解し、対面での活動を大切にすることも併せて取り組んでほしい。 ・体験的な学習も大切にする計画を意図的に計画していくとよい。 ・優れた技術を持っている教員から学ぶ機会は、これからも継続されるとよい。
2	(現状) ○指扇北小と連携して、小中合同の学校運営協議会を実施している。学校運営協議会では、育成したい生徒像等について熟議を重ね、「郷土愛」をテーマにしていくということを確認した。 ○指扇地区は、地域との繋がりや協力体制が既に確立されている。 (課題) ○地域の協力のもと、保護者への周知・理解・協力を深めていく必要がある。	○地域行事等への参加や学校行事の公開を通じた地域とのさらなる交流・連携 ○学校運営協議会についての広報	①地域行事への参加および地域と連携した学校行事の推進により、地域の教育力が効果的に発揮され、活かされるようにする。 ②学校行事の地域への公開により、生徒や保護者の様子を把握できるようにする。	①小中合同学校運営協議会を学期1回・年3回実施することができ、委員からの意見を熟議したり、来年度に向けての要望・評価について話し合ったりすることができたか。 ②地域行事及び地域と連携した学校行事に積極的に参加することができたか。	①年3回の実施とともに、本校における具体的な課題について、協議することができ、Sola ルーム見守りボランティア募集の協力を頂くことができた。 ②地域行事の開催会場として協力したり、合唱コンクールの公開や社協の協力による福祉授業を実施したりと、地域との連携が図れた。	B	①毎年8月中旬に行われる地域行事「指扇まつり」において、吹奏楽部の練習日程の調整について、教職員と保護者の理解と協力体制を図る。 ②来年度以降の生徒数増や授業時数の確保に伴い、行事の削減、行い方の工夫といった精選を行っていく。	・地域が主体となって取り組めることを考えていきたい。そのことで少しでも、教員の業務が増えることを減らしていきたい。 ・SSNのしくみづくり(防災をテーマにする地域と連携)を作れるとよい。
3	(現状) ○「清潔感・季節感・彩りのある学校」を目指し、様々な手法を使って取り組んでいる。 ○学校課題研究「さいたまSDGs教育」の初年度にあたり、研究内容の共通理解を図り、本校ならではの取組となるよう研究を推進している。 (課題) ○「さいたまSDGs教育」の研究では、学びの動機付けに基づく、研究を軸に進めていく必要がある。	○校内外の環境整備の充実 ○「さいたまSDGs教育」の研究による学びの実現	①教職員や掲示委員会や環境委員会の生徒と共に、委員会の活動時間を活用しながら、校内掲示や環境整備を行う。 ①「ESD」の取組による、生徒の自発的、自主的な活動になるように、理論研修を進めていく。 ②「指扇SDGs」の取組を軸にしなが、生徒会が発信源となり、指中生徒への意識付けにつなげていく。	①学校評価の保護者アンケートにおいて、学校への信頼に関する項目の数値が、前年度より高まったか。 ①「ESD」実施後の生徒アンケートにおいて、様々な取組を行うことができたという割合が、全体の8割程度となったか。 ②「指扇SDGs」と関連付けて、授業を実施し、研究を進めることができたか。	①工事に伴う緑化活動が思うようにできなかったが、環境委員会による落ち葉掃きといったできることを工夫して取り組んだ。 ①理論研修を中心に、本年度は組織づくりに時間をかけ、アンケートによる生徒の意識調査や実践教科等の絞り込みができた。 ②委員会活動と連携させることで、「ESD教育」の目的に迫れるために、既存の「指扇SDGs」の見直しを行った。	B	①学校研究課題の柱SDGsとの関連を図った委員会活動の充実に向けて、生徒が主体となった活動を展開する。 ①教職員と生徒が共にSDGsの理解を深められるように、授業実践を通して、研修が深められるようにする。 ①各委員会で6月ごろ目途にアンケート調査を実施し、進捗状況を把握し、方策を練っていく。	・学校課題研究の取り組みの中に、地域の問題点も取り上げ、生徒と地域で取り組めることを考えてみてはどうか。地域とのつながりとの関連も持てる。特に、防災教育は大切にしてほしい。特に中学生は力になる。
4	(現状) ○サービスについての意識は比較的高く、業務に対して誠実に取り組んでいる。 ○時事的な教育課題に対応するため、校内研修等で情報共有を行っている。 (課題) ○職員の年齢層が若く、計画的に資質向上を行っていく必要がある。	○指導力及び資質向上のための研修の充実	①職員会議や職員集会を活用して、校長からの情報の伝達をこまめに行う。 ②教頭・教務主任を中心に、研究主任・生徒指導主任・教育相談主任等による、5年経験者未満の教職員への研修会を開催する。	①全教職員が自分事として捉え、情報を共有し、以後の教育活動に生かすことができたか。 ②授業改善や指導力向上の視点で捉え、意欲的に参加することができたか。	①個人情報の取扱について特に力を入れて、教頭を中心に機会を捉えて研修を実施して、周知徹底を図った。 ②昨年度の市学習状況調査の結果を基に、本校の研究課題のキーワード「学びの動機付け」を意識して、授業改善を進めた。	A	①サービスについては、引き続き、年間を通じて、必要性を感じられるように、時期や内容を考えて実施していく。 ②教職員の授業力や資質の向上に向けて、教頭・教務と連携して、年間を通して計画的に実施していく。	・教職員間の報告連絡相談見届け確認を一層大切にしてほしい。 ・経験年数の若い教員の育成は特に大切に実施してほしい。

